

「国際交流推進委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：福井小紀子（東京科学大学大学院）

委 員：池田真理（東京大学大学院）、落合亮太（筑波大学）、菅野雄介（東京科学大学大学院）、
グレッグ美鈴（名桜大学大学院）、酒井啓子（畿央大学）、寺本千恵（広島大学大学院）、
長山豊（金沢医科大学）、古澤亜矢子（日本福祉大学）、森木友紀（千里金蘭大学）

2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際組織と連携を取りながら、日本国内の看護系大学のグローバル化を促進・支援することである。具体的な活動目標は以下である。

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流を積極的に推進する。
- 2) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) の Executive Committee (EC) に参加し、連携を促進する。現在、EAFONS の代表が池田委員であるため、EAFONS の事務局機能も委員が担っている。
- 3) 看護系大学における国際的な教育・研究活動を推進・支援する。

3. 活動経過

- 1) 今年度の委員会は、計 6 回開催され、委員会趣旨に沿った活動が実施された。

【第 1 回委員会】

日時：2024 年 9 月 24 日 18 時～19 時（Zoom 開催）

内容：2023 年度活動報告の確認、2024 年度活動計画・予算案の確認と検討等を行った。

また、今年度の研修セミナー企画テーマ、開催時期について検討を行った。

【第 2 回委員会】

日時：2024 年 10 月 23 日 17 時 30 分～19 時（Zoom 開催）

内容：研修セミナーのテーマと内容、開催形式について検討を行った。また、EAFONS EC としての JANPU の役割、QS 世界大学ランキングや国際力強化について意見交換を行った。

【第 3 回委員会】

日時：2024 年 11 月 19 日 17 時 30 分～19 時 10 分（Zoom 開催）

内容：研修セミナーの当日のプログラム、発表内容の確認、分科会の内容について検討を行った。

【第 4 回委員会】

日時：2024 年 12 月 17 日 17 時 30 分～19 時 25 分（Zoom 開催）

内容：研修セミナーの準備状況の確認、フライヤー案の確認、分科会の運用について検討を行った。

【第 5 回委員会】

日時：2025 年 1 月 14 日 18 時～19 時 10 分（Zoom 開催）

内容：研修セミナーの準備状況の確認、発表内容の確認、分科会の運用について検討を行った。

【第 6 回委員会】

日時：2025 年 3 月 11 日 17 時 30 分～19 時（Zoom 開催）

内容：研修セミナーのアンケート回答結果を基に振り返りと次年度の検討、2024 年度事業活動報告書と 2025 年度の事業活動計画書の確認及び検討した。

2) EAFONS の EC への参加と連携促進

【EC Meeting への参加】

2025 年 2 月 13-14 日の EAFONS2025（ソウル大会）の会期中に開催され、参加者 2,146 名のうち、日本は 956 名（44.5%）が参加した。本委員会からは、EAFONS EC の Chair である池田委員と EC メンバーの福井委員長、EC 事務局のグレッグ委員と寺本委員が参加した。東アジア地域の看護系大学間協働のための活動方法や新たな国々の受け入れ等、運営課題の検討が行われた。また、博士課程の教育に関する実態調査を国際共同研究（8 ヶ国）として今後進めていくことについて協議した。次回の EAFONS 学術集会は、2026 年 2 月 27-28 日にシンガポールで開催される予定である。

3) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進

本委員会主催セミナー「共に考えよう、国際交流の企画から運用、そして発展」を 2025 年 3 月 8 日（土）に Zoom にて開催した。詳細は、実施報告書（5. 資料参照）に記載した。

4. 今後の課題

今年度のセミナーは、コロナ禍では行うことができなかった分科会を Web で開催し、参加者と直接対話する機会を設けた。第 1 部では、博士課程を持つ看護系大学が国内外でプレゼンスを高めていくために、福井委員長から、QS 世界大学ランキングを基に海外と日本の大学の現状から博士課程を持つ看護系大学が若手を含む研究者の国際的な活動力の育成の必要性について説明し、池田委員から、EAFONS の日本人参加者が多数を占める現状を踏まえ国際的な観点から日本の位置づけと期待について説明した。また、分科会では、主に 3 つのテーマ（①国際交流を進める際の学生教育・学生支援の工夫、②国際交流プログラムの事務的な手続き・教員側の教育に関する悩みと工夫、③海外大学との共同研究のはじめかた）に分かれ、参加者がテーマに関する取り組みと課題を共有し、解決策について意見交換を行った。参加者からは、他大学の現状や課題を知ることができた、同じ悩みを共有することができた、参考となる取り組みが聞けて試してみようと思った等、肯定的な意見が聞かれた。次年度は、抽出した課題を基にセミナーの企画・運営を行っていく他、博士課程を持つ看護系大学のプレゼンスを高めるための意識付けを継続して行っていく予定である。

5. 資料

1) 2024 年度 JANPU 国際交流推進委員会主催セミナー実施報告書

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/houkoku20250308kokusai-seminar.pdf>

2024 年度 JANPU 国際交流推進委員会主催セミナー

「共に考えよう、国際交流の企画から運用、そして発展」

実施報告書

■開催概要

名称:共に考えよう、国際交流の企画から運用、そして発展

日時:2025 年3月 8 日(土)13:00~15:30

形式:Zoom ミーティングを用いた WEB 会議

参加者:JANPU 会員校に所属する教員 42 名

開催目的:国際交流をどのように開始し、発展させていけば良いのか、経験者の語りを基に、グループワークを行って考える参加型セミナーとした。また、参加者が本セミナーから、国際交流を発展させるヒントを得ることを目指して企画した。

実施内容:以下の通り、情報提供および2部構成で実施した。

情報提供(13:05-13:20)

世界における日本の看護系大学の位置づけ、本委員会の活動目標
EAFONS の活動について

第1部 講演(13:20-13:50)

1. 国際交流を進める際の学生教育・学生支援の工夫:プログラムの組み立ての現状と困難感
2. 国際交流プログラムの事務的な手続き・教員側の教育に関する悩みと工夫
3. 海外大学との共同研究のはじめかた:コラボレーション相手やテーマの設定を中心に

第2部 テーマ別グループワークと共有(14:00-15:25)

■開催総括

今年度は、コロナ禍では行うことができなかった分科会を Web で開催し、参加者と直接対話する機会を設けた。分科会では、主に 3 つのテーマ(①国際交流を進める際の学生教育・学生支援の工夫、②国際交流プログラムの事務的な手続き・教員側の教育に関する悩みと工夫、③海外大学との共同研究のはじめかた)に分かれ、参加者がテーマに関する取り組みと課題を共有し、解決策について意見交換を行った。参加者からは、他大学の現状や課題を知ることができた、同じ悩みを共有することができた、参考となる取組みが聞けて試してみようと思った等、肯定的な意見が聞かれた。今後は今回抽出された課題を基にセミナーの企画・運営を行っていく予定である。

■アンケート結果(35 名回答、回答率 83%)

1. 属性

	2024 年度 (N=35)		2023 年度* (N=57)		2021 年度** (N=82)	
	n	%	n	%	n	%
性別						
女性	33	94%	53	93%	78	95%
男性	2	6%	1	2%	3	4%
未回答	0	0%	3	5%	1	1%
年齢						
20歳代以下	0	0%	2	4%	2	2%
30歳代	2	6%	6	11%	7	9%
40歳代	16	46%	11	19%	20	24%
50歳代	12	34%	26	46%	35	43%
60歳代以上	5	14%	8	14%	16	20%
未回答	0	0%	4	7%	2	2%
勤務先						
国立大学・省庁大学校	5	14%	11	19%	11	13%
公立大学	14	40%	15	26%	26	32%
私立大学	16	46%	31	54%	45	55%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
職位・身分						
学長・学部長・学科長・専攻長	3	9%	8	14%	2	2%
上記以外の教授	8	23%	15	26%	31	38%
准教授・講師	16	46%	20	35%	31	38%
助教・助手	8	23%	10	18%	13	16%
大学院生	—	—	2	4%	0	0%
学部生	—	—	1	2%	2	2%
学務部職員	—	—	1	2%	2	2%
未回答	0	0%	0	0%	1	1%
勤務・在学している地域						
北海道・東北	3	9%	3	5%	7	8%
関東	9	26%	20	35%	27	33%
中部	6	17%	12	21%	18	22%
関西・近畿	8	23%	13	23%	17	21%
中国・四国	4	11%	3	5%	4	5%
九州・沖縄	5	14%	6	11%	9	11%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

* 2023 年度のアンケート回答結果:2024 年 3 月 2 日(土) 13:00-15:10 Zoom ウェビナーにて開催
「国際交流の再開と更なる発展:コロナ禍で継続して取り組んだ 4 大学の経験から」

** 2021 年度のアンケート回答結果:2022年2月19日(土) 13:00-15:30 Zoom ウェビナーにて開催
「with コロナにおけるオンライン国際交流～具体的活動事例に焦点を当てて」

■アンケート結果(つづき)

2. セミナー開催時期

	2024 年度 (N=35)		2023 年度* (N=57)		2021 年度** (N=82)	
	n	%	n	%	n	%
開催時期	(3 月開催について)		(3 月開催について)		(2 月開催について)	
とても良かった	20	57%	34	60%	41	50%
まあまあ良かった	14	40%	21	37%	38	46%
あまり良くなかった	1	3%	2	4%	3	4%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
休日の開催						
とても良かった	18	52%	24	42%	31	38%
まあまあ良かった	11	31%	27	47%	36	44%
あまり良くなかった	5	14%	6	11%	11	14%
まったく良くなかった	1	3%	0	0%	4	4%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
午後の開催						
とても良かった	23	65%	32	56%	38	46%
まあまあ良かった	10	29%	23	40%	41	50%
あまり良くなかった	2	6%	2	4%	3	4%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
開催時間の長さ	(2時間 30 分)		(2時間 10 分)		(2 時間 30 分)	
とても良かった	24	69%	24	42%	21	26%
まあまあ良かった	11	31%	28	49%	46	56%
あまり良くなかった	0	0%	5	9%	14	17%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	1	1%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
オンラインでの開催						
とても良かった	30	86%	52	91%	66	81%
まあまあ良かった	5	14%	5	9%	15	18%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	1	1%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

* 2023 年度のアンケート回答結果:2024 年 3 月 2 日(土)13:00-15:10 Zoom ウェビナーにて開催
「国際交流の再開と更なる発展:コロナ禍で継続して取り組んだ 4 大学の経験から」

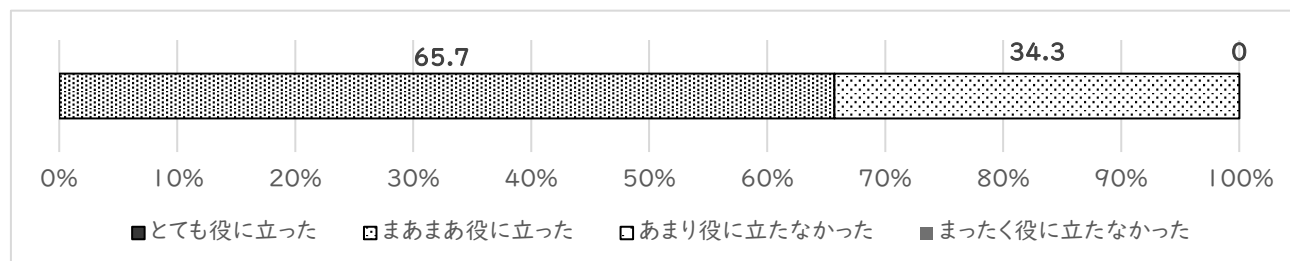
** 2021 年度のアンケート回答結果:2022年2月19日(土)13:00-15:30 Zoom ウェビナーにて開催
「with コロナにおけるオンライン国際交流～具体的活動事例に焦点を当てて」

2024 年度:開催時間の長さの選択肢が異なるが、これまでに合わせて表示

■アンケート結果(つづき)

3. セミナーの内容に対する評価:情報提供および第 Ⅰ 部グループ討議に向けた委員からの課題共有について

Q3-1. 情報提供および課題共有に対する評価をお尋ねします。それぞれについて当てはまる項目1つを選択してください。



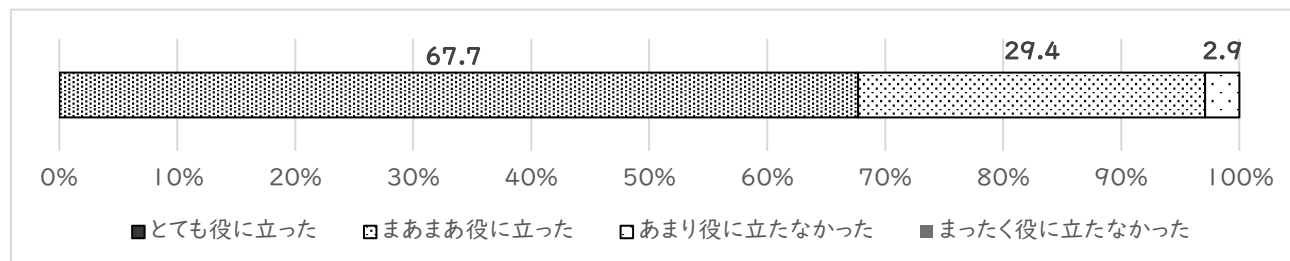
Q3-2. 情報提供および課題共有について、役に立ったと思った事柄を挙げてください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=23)
取り組み、課題、工夫などの情報提供 (14 件)	・いろいろな大学での課題、取り組みなど、さまざまなプレゼンがとてもよかったです。 ・自大学では国際的な取り組みが組織としてほとんど行われていないため、全て参考になりました。 ・各大学の具体的な取り組みや現状、あるいは課題を提示して頂き、同じ部分での悩みがあるのだと共感出来てありがたかった。 ・各大学の取り組み状況が聞けた。 ・国際交流の現状と今後の発展に向けて、どのようなことが課題となっているかの概要がつかめた。
国際共同研究の進め方 (3 件)	・知らないことがいくつもありました。共同研究のお誘いを受けていますが、研究にとりかかるにあたって考える必要性のあることを知りました。 ・国際共同研究の進め方
国際的な大学評価 (3 件)	・国際的な大学評価に関するデータと、国内外における評価に対する意識の違いを認識することができた。 ・QS ランキングについて、大変勉強になりました。
国際交流の必要性や手続き (2 件)	・国際交流の必要性が理解できた。 ・MOU を初めて聞いた。国際交流の事務的な手続きについて少し知ることができた。
JANPU の目指す方向性 (1 件)	・JANPU の目指す方向性が「国際的な博士課程の教育のネットワーク強化」であることを知ったこと。
グループワークのヒント (1 件)	・第 2 部のディスカッションのテーマ、課題、解決策のヒントをいただいた。

■アンケート結果(つづき)

4. セミナーの内容に対する評価:第2部(分科会:グループ内での参加型討議)について

Q4-1. 第2部(分科会:グループ内での参加型討議)に対する評価をお尋ねします。それぞれについて当てはまる項目1つを選択してください。



Q4-2. 第2部(分科会:グループ内での参加型討議)で、役に立ったと思った事柄を挙げてください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=29)
取り組み、課題、工夫、解決のヒント(17件)	・どのような点が課題なのかがお話をうかがってみえてきました。これから取り組む段階の大学にとっては大変役立つ情報でした。 ・具体的解決策を検討できたこと ・他学の取り組みを知ることで次に活かせる知見が得られた。 ・他の教育機関での国際交流に関する取り組みや課題について知ることができて、経験の浅い自分にはとてもプラスになった。 ・実現可能なレベルでのヒントをいただいたと思います。
情報共有(5件)	・他大学での国際交流の取り組みや、困りごとを共有できた。 ・他大学での悩みや工夫の共有ができたこと
前向きに取り組む気持ちになったこと(2件)	・他の大学の工夫についてや、他大学も同じような悩みがあるとわかり、よいよいプログラムとするために取り組もうという気持ちになった。
MOUの重要性(1件)	・MOUの重要性を知ることができました。大学間協定を結んでいたとしても、自分の主となる仕事との両立は困難であり、一部の教員だけの負担とならないようにするためには組織的な取り組みとすると良いと考えることができました。
JICAの動き(1件)	・JICAの動きについての情報をいただきました。

■アンケート結果(つづき)

5. 看護学教育のグローバル化に向けて

Q5. 今回のセミナーを通して、あなたやあなたの大学では看護学教育のグローバル化に向けて明日からどのようなことをできると思いますか？ 具体的な目標や方策を1つ以上、挙げてください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=29)
組織的な国際交流活動の推進 (9 件)	・学部のみならず、大学院も含めた組織的な国際交流活動を推進していくこと。 ・受け入れプログラム実施の際に学内の多くの教員が関われるような工夫や派遣した学生の学びについて、教員にも関心を持ってもらえるような工夫をしていきたい。 ・国際交流の継続のために、学内外の役割分担・連携体制・ネットワークづくりを構築していく。 ・まずは(大学の)提携校に看護学部としてアプローチすること。
人材育成・能力向上 (6 件)	・学生や教員の国際交流の機会を増やす。 ・教員に学内で開催されている英会話のカフェに参加してもらうように呼び掛ける。
個人のネットワーク構築 (4 件)	・大学間協定は結べていませんが、同じ関心ごとを持って交流を継続していた海外の大学の教員との交流を維持し、Zoom やメールだけでも良いので、同じ関心ごとの交流を再開しようと思いました。 ・まずは個人レベルで共同研究を行えるようなコネクション作りのため、学会参加の機会を大切にします。
国際共同研究の推進 (4 件)	・共同研究のきっかけづくりを始める。 ・国際共同研究についての取り組みを学内の有志で始める。
国際交流の仕事の整理 (3 件)	・教員の負担を減少させるためにも、今年度の国際交流の仕事をしっかり書き出して整理していこうと思います。 ・国際交流委員と協力して、具体的に援助してほしい内容などをまとめて説明できるように準備していくこと
国際交流プログラムの検討 (2 件)	・国際交流プログラムの内容の検討 ・学生プログラムの充実
MOU の学習 (2 件)	・まずは、自分もわかっていない、自施設の MOU の状況などを調べてみることから始めたいと思います。
グローバル化の意識調査 (1 件)	・教員や学生のグローバル化についての意識調査をしてみたいと思った。地方の現状を考えながら、看護教育のグローバル化からどのようなニーズを感じているのか興味があった。
学内での情報共有 (1 件)	・国際交流の位置づけ、目的、予算面、MOU 内容、海外大学と調整する視点は参考になりそうですので、大学内で情報共有していきます。

■アンケート結果(つづき)

6. セミナーの感想と意見

Q6. 今回のセミナーについてのご意見、ご感想などをご記入ください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=20)
感想(16件)	・他の大学の取組の実際が分かりとても良かったです。また、第1部でもさまざまな立場の大学(中規模・大規模大学、国公立・私立など)の話があり、身近に考えることができました。 ・グループ討議で、他大学の先生方と意見交換できたのは貴重な機会でした。繋がっていただけたらと思います。
リクエスト(3件)	・分科会において、国際交流経験者が少なかったことから、情報・意見交換を行うことが難しかった。これから学生の国際交流を始めていくにあたり、経験豊富な先生の体験や問題解決策をもっとお聞きしたかった。 ・テーマごとに各大学の取り組みについてももう少し聞いてみたかった。
開催方式など(4件)	・講義形式ではなくディスカッションも取り入れたことは大変良かった。 ・毎年参加させていただいていますが、グループワーク形式を取り入れて頂け、他大学の担当者を話げできたことがとても良かった。とても良い研修を企画してくださりありがとうございました。

7. 今後希望する企画

Q7. 大学のグローバル化に向けて、今後開催してほしい企画や企画時期についてご意見をご記入ください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=16)
グローバル化の推進(3件)	・博士課程の留学を中心としたグローバル活動の推進について
国際共同研究・国際研究(2件)	・院生の研究で国際研究をされているとしたらどのように実践されているか。
教員の能力開発(2件)	・英語が苦手な先生方もいると思うので、そのような方が国際交流をするのにどのように工夫しているか教えてほしいです。
国際交流の成功事例の共有(1件)	・国際交流が多くの大学の中で重要課題に挙げられているなかで、大学の運営主体(国立、公立、私学)や形態(総合大学、単科大学)等で資金源、教員と事務との役割分担、実施後の評価、スピード感など異なることがよくわかりました。各大学の「企業秘密」なのかもしれませんが、成功事例集、HINTS&TIPSなどが共有できるとよいと思いました。
事務方の話(1件)	・各大学の国際交流の実際、各大学で国際交流部門を担っている事務方のお話なども聞いてみたい。
その他のアイデア(2件)	・大学の規模、地域などでマッチングして、一緒に国際交流などを行っていただけるような企画(今後互いに協力できるきっかけになるような企画)があると嬉しいです。